

第2回古賀市基本構想審議会 議事要旨

【開催概要】

開催日時：令和3年3月25日(木) 18:00～19:58

開催場所：リーバспラザこが交流館多目的ホール

出席者：

(委員) 稲永委員、豊貞委員、南委員、山田委員、渡邊委員、角森委員、木下委員、芝尾委員、清水委員、高原委員、玉谷委員、中西委員、藤本委員、松永委員、三輪委員、吉田委員、安武委員、石原委員、荻原委員、木村委員、崎村委員、柴田委員、谷口委員、内藤委員、原田委員、三戸委員、宮基委員

(事務局) 田辺市長、横田副市長、総務部長、経営戦略課長、経営戦略係長、経営戦略係員

【議事・要旨】

1. 開会	
2. 会長あいさつ	
3. 議事 (1)総合計画の構成について (2)基本構想の骨子案について (3)アクションプランの項目について	<p>事務局：【資料1】に基づき、総合計画の構成、基本構想の骨子案、アクションプランの項目について説明。</p> <p><委員からの質問事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・住みよさ指標、定住指標といったまちづくり指標の設定方法や位置付けについて → (回答) 住みよさ指標、定住指標については、市が行う様々な政策、施策が効果を上げることで市民が住みよい、住み続けたいと感じる主観の指標であると考えている。様々な政策を総合的に取り組んだ結果、この2つの指標は上昇すると考えている。 ・古賀市の施策だけでは解決しない課題の要因分析について → (回答) 古賀市の取組だけでは解決しない課題であっても、国・県の政策、施策と連動して、市が取り組むことで課題を小さくできるのではないかという視点で政策、施策を取りまとめていく。 ・政策の位置付け、指標について → (回答) 基本構想は、政策の名称とその目的、めざすまちの姿、その政策にぶら下がる施策とその方向性を盛り込む。まちの状態・課題指標については、必要があれば見直すため、基本構想には盛り込まず、毎年度ローリングするアクションプランで設定する。 ・住みやすさ指標、定住指標とアクションプランの関係性について → (回答) アクションプランに盛り込む様々な政策、施策を総合的に講じることで変化する指標としてこの2つを設定している。政策、施策により、総合的に住みやすさが、おしなべて上昇すれば、市の10年間の取組としては良い方向に向かっている。

るという考えで指標を設定している。

・人によって異なり、また変化していく主観を指標設定する意図について

→ (回答) 市民が住むという概念をベースとして、市民がどれくらい主観的に住みやすいと思っているかということの集合体がアンケート結果として一定のパーセンテージに出る。子育てや医療介護体制、インフラの整備等それぞれの目標を設定し高めることで、最終的に住みよさという主観の集合体の指標が高まる。一人一人の主観の集合体を捉えるという意味で、この指標を設定している。

・住民満足度について

→ (回答) 住民満足度を各政策、施策ではかり、指標として設定してはどうかとのことだが、住民満足度は、非常に主観的なものである。その満足度が上がった要因が把握できないため、政策、施策の中で指標として設定すべきではないと考えている。基本事業の指標が上がれば、その上にある施策の指標が上がる、施策の指標が上がれば、まちの状態・課題指標が上がるという考え方のもとに、住みよさ指標、定住指標を設定している。

何らかの手法で各政策、施策に対する市民の意向を捉えていく必要はあるため、意見を踏まえ、今後具体的な手法を検討させていただく。

・市民アンケートの方法について

→ (回答) 10年間の計画を策定するタイミングで実施している。令和元年度実施した市民アンケートは、18歳以上の市民の中から3000人を無作為で抽出し、郵送配布、郵送回収という方法である。3000配布したうち、回答が得られたのが1120であり、回収率は37.3%と統計上有意なものと考えている。

・基本指標の設定について

→ (回答) 人口減少社会の中、一定の人口を維持することを目的に客観指標として想定人口を設定する。市民が住みよさと感じ、そこに住み続けようと思う、古賀に住んでいない方が古賀に住みたいと思う住みよさ指標、定住指標は想定人口と相互に関連しており、指標の設定としては適当であろうと考えている。

・第5次総合計画における都市イメージについて

→ (回答) 第4次総合振興計画の都市イメージは第3次総合振興計画まででいう、まちづくりの合言葉、都市像が全て含まれたものになっていた。第5次総合計画ではそこを整理し設定することとしている。

・これまでの計画との大きな変更点及びその意図について

→ (回答) 現計画は10年間の計画を前期基本計画・後期基本計画として5年に分けているが、5年という長い期間の中では、計画にない新たな政策や施策に取り組むことが難しかった。次期計画ではアクションプランをローリング方式で毎年見直す

	<p>という構成にすることで、新しい課題や市民や事業者の要望を的確に捉えていくこととしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本構想の10年間という期間設定について →（回答）4年間のアクションプランを毎年ローリング方式で見直していくと、基本構想の10年間という期間を超えていく。アクションプランをしっかりと見直していけば、何年に設定しても影響がないと考え、10年間で一区切りとして設定している。 ・個別計画とアクションプランの関係性について →（回答）アクションプランは各個別計画に沿った施策を4年間でどのように実施していくかを示したものになる。 ・分野別現状と課題の位置付け、基本構想との繋がりについて →（回答）基本構想は市議会に議決をいただく10年間不変のものであり基本構想の中に現状と課題を書くと、10年間固定した現状と課題であるように見えてしまう。序論で整理する政策別現状と課題は、あくまでこの基本構想策定時の現状と課題であって、毎年度アクションプランで見直していくという作りとしているが、意見を踏まえ、政策の目的や解決すべき課題等も表現できるよう留意していく。 ・アクションプランをローリングしていく上での課題の把握方法、審議会への諮問の有無について →（回答）アクションプランのローリングにあたっては、課題の把握が重要であるため、その手法については適切な方法を検討していく。また、議決事項である基本構想に従ってアクションプランをローリングしていくため、毎年それを審議会に諮ることは想定していない。
<p>4. 報告</p> <p>(1)団体・事業者アンケートの結果概要について</p> <p>(2)市民アンケート調査結果の追加について</p> <p>(3)タウンミーティングの結果概要の追加について</p>	<p>事務局：【参考資料1、2、3、4】に基づき、団体事業者アンケート、市民アンケート、タウンミーティングの結果概要について説明。</p> <p><委員からの質問事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート調査項目の作成方法について →（回答）基本構想、基本計画を作る際に、ある程度の期間で評価ができるように、過去から行っているものをベースに同じアンケート項目を意識して作成している。
<p>5. その他</p>	
<p>6. 閉会</p>	<p>事務局：次回の審議会の日程及び説明</p>